

それより出たる也、すべて世の中の言は、意はさまざまにうつりきぬること多きぞかし、

〔松屋筆記 六十五〕オトラシヤ、カッタキ、ヤドウカ、

大和國にては、癩病の者をオトラシヤといへり、名義不詳、蓋御通有セラレヨといふを約ていふ歟、奈良坂に住る癩人多く、奈良の町及在郷に物乞ありくを施與せざる時、オトラシヤといひけんより、名におへるにや、關東にても、乞食に物與ざる時は、通ラツシヤイといへり、ポロ／＼には、虛無僧也御無用といふこと、又通例也、關東にて癩人をカッタキといふは、乞兒をカタキといふより、癩人が物乞ありくに依て名づけし也、さればオトラシヤもカッタキも、乞與の詞に出たる名也、

〔瘍科秘録 三〕癩

癩ハ素問ニ出ツ、肘后方ニ始テ癩ト稱ス、後世ノ醫書多ク癩ノ字ヲ用ユ、癩癩通用スレドモ、癩ヲ

本字トス、禮月令ニ、仲冬行春令、民多疥癩ト云ヒ、韓非子外儲説ニ、厲憐王、史記豫讓傳ニ、漆身爲厲

厲ヲ癩ニ作ルハ後世ノ事ナリ、利ヲ癩ニ作リ、淋ヲ癩ニナスノ類ミナ同シ、共ニ癩ノ字ヲ用ユ、又惡疾大風大麻風等ノ名モ通用ス、天

刑ト斷リタルハ醫學入門ナリ、其他ノ名多シト雖ドモ、枚舉スルニ暇アラズ、此病因ヲ素問ヲ始

メ諸方書ノ内ニ、不正ノ風ヲ受テ病モノニ論ジテアレドモ、實ハ然ラズ、飲食ヲ慎マズ、縦ニ禽獸

ノ肉及ビ叔鮪マヅ細鱠ホ魚鱸等ヲ食シテ、自然ト敗血ヲ生ジ、諸瘡瘍ノ病因ト成ナリ、其内ニテ敗血凝

滯スルコト劇シキモノハ、癩風ニ化スルナリ、自發スルモノハ此因ヨリ起レドモ、父母ノ血脈ヲ

傳ヘテ患ルモノ多シ、或ハ血脈ノ正シキ家ニモ、血脈正シカラザルモノヲ娶テ、其子弟ノ癩風ヲ

患フルコトアリ、此病萬病中ノ異證ニシテ、古ヨリ難治トス、其内ニモ陰證ト陽證トアリ、陰證ノ

モノハ身體ノ内、幾處モ麻木不遂シテ、口眼喎斜ニナリ、持タルモノヲ思ハズ墮シ、草履ノヌケタ

ルモ知ラズニ居ルコトアリ、或ハ骨節疼痛筋脈拘急シ、遂ニハ十指共ニ屈シテ伸ビザルモノア

リ、或ハ先魚際合谷ノ肉脫シ、削ソイテ去リタル様ニナリ、久シクシテ總身羸瘦スルモノアリ、或ハ癩オ